

チームオレンジ ～ このまちで自分らしく生きていく ～



1.基本情報(令和7年12月現在)

市・町名	大村市		
人口	高齢者人口	高齢者率	面積
99,574人	26,100人	26.20%	127km ²

2.チームの概要

チーム名	
開始時期	令和7年4月1日 ～
実施主体	☐ 市町 ☐ 地域包括支援センター ☒ 住民・ボランティア ☐ 社会福祉協議会 ☐ その他 ()
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員、認知症初期集中支援チーム員
メンバー構成	久原団地・木場団地通いの場メンバー
活動頻度	月2回
チームオレンジの類型	☐ 第1類型 共生志向の標準タイプ ☒ 第2類型 既存拠点活用タイプ ☐ 第3類型 拠点を設置しない個別支援型タイプ ☐ その他
チームオレンジ三つの基本について	☐ 3つの基本を満たしている ☒ 3つの基本は満たしていないものの仕組みが構築されている。
運営財源	☐ 市町からの委託 ☐ 市町からの補助 ☐ 会費・参加費 ☐ その他 (なし) ※上記の財源 ☐ 市町一般財源 ☐ 地域支援事業交付金 ☐ その他 ()

3.チームオレンジの設置に至ったプロセス

以前から通いの場を月2回続けており、生活支援コーディネーターとチームオレンジコーディネーターから声かけをし、認知症サポーター養成講座を受講、チームオレンジの趣旨に賛同し、ステップアップ講座を受講し、チームオレンジとしても活動を開始した。

4.活動内容

- ・脳を活性化するためのクイズやゲーム、運動など
- ・通いの場への参加の呼びかけ、通いの場からの帰りは、同じ方向の方は一緒に帰っている。
- ・気になる方(認知症やその疑いがある方を含む)の見守り、声かけをしている(ゴミ出し、散歩等)。
- ・気になる方(認知症やその疑いがある方を含む)がいたら、対応方法について話し合いをしている。

5.活動を進めて行く上で工夫したこと・配慮したこと

- ・日頃から良い関係(信頼関係)づくりを心がけている。数日顔を見かけなかったら、声かけをして困ったことがないか尋ねるようにしている。
- ・隣人のお宅(団地)から、大きな声や音が聞こえてくる時があるが、うるさいと思うのではなく、生活されているなど、前向きに捉えるようにしている。
- ・気になる方(認知症やその疑いがある方を含む)で対応方法が分からない場合は、民生委員等に相談し対応方法を検討、必要時地域包括支援センターにつないでいる。

6.ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

令和7年2月16日開催

- ・認知症サポーター養成講座の振り返り
- ・グループワーク ・もし自分が認知症になったら何をしてほしいか
- ・今、できること、今後してみたいこと
- ・チームオレンジについて

7.活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

【効果】

参加者がのびのびと過ごされるようになってきた。
通いの場は、団地以外の方も参加できるため、近所の方に参加の呼びかけをしている。医療機関から紹介され、通いの場に参加している人もいる。

【課題】

40～50歳代で、親が認知症かもしれないと心配している人は多いと思うが、どう対応すればいいのかわからない人もたくさんいる様子。そうした方に対して、「こうすればいいですよ」とアドバイスをしているが、この年代の方にはもっとサポートが必要だと感じている。

8.チームのアピールポイント

通いの場では、全員がおしゃべりできるような声かけをする。
自分ができる範囲で楽しみながら活動をしている。

9.今後の活動について

これまで通り、市の出前講座や健康づくり推進員による体操を取り入れながら、馴染みの顔ぶれで話しやすい雰囲気づくりを心がける。第3日曜日は参加者みんなでしたいことを話し合い、活動する。